

## 平成27年度第3回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第3回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見をいただきました。

### 1 日時及び場所

平成27年11月12日（木）  
近畿中国森林管理局4階第3会議室

### 2 議題

- (1) 近畿中国局管内の需給動向について
- (2) 国有林材供給調整の必要性について
- (3) その他

### 3 議事概要

#### 《検討結果》

住宅建設は前年同期を上回る水準にあり、木材も全般に在庫調整が進んで、荷動き、価格とも緩やかながら回復基調ないし、横ばいで推移している。

合板も在庫調整が進んで価格が上向き、大手メーカーは減産を緩和している。

国有林材の供給調整の必要性は認められないが、引き続き市場動向を見守っていく必要がある。

#### 〈主な情報、意見について〉

##### ○国産材の供給及び価格の動向について

- ・和歌山県内の森林組合共販所4カ所における素材販売動向は、7月・8月期に比べ9月・10月期は搬出量が増大し、丸太単価も値上がりした。数量、価格とも昨年とほぼ同程度となっている。  
また、年間を通しての取り扱い量は一昨年よりは少なくなっており、工場への直送が増えている。
- ・岡山県内の素材動向については、11月に入りスギ価格は横ばいで推移、ヒノキは10月は2万円くらいまで値上がりしてきたが、11月に入り記念市疲れや農繁期を終えた民有林の出材や国有林材の出荷等があり、良材の価格が10%程度値下がりしている。
- ・奈良県内の丸太価格は、役物用は高値だが一般材は安い。
- ・奈良県内の素材生産は9月の豪雨で盛り上がり欠ける。土用の葉枯らし材の搬出等で11月～12月は出材増加が見込まれる。

##### ○原木需要分野（川下）の動向について

- ・住宅着工は戸数や金額では伸びているが、一戸あたりの床面積が小ぶりになっていることや、金額には太陽光パネルなども含まれるので、留意が必要である。
- ・プレカットは分譲向けは好調で、地場工務店向けは低位である。また、建材問屋も地場工務店向けは苦戦している。
- ・合板は大手メーカーの減産効果もあり、価格が持ち直してきた。
- ・次の消費税増税への動きが見えつつあるが、需要や材価への反映は見られない。

## ○その他

- ・CLTを推進するのは良いが、建築への採用が急激に進むと、CLTの供給、施工が追いつかなくなるのではないかと懸念される。
- ・輸出について、原木の輸出は、国内で生産される合板用の原木と競合している側面がある。製品の輸出は、韓国向けは壁材が主流だが、節の有無にこだわり始めている。